

歴史探訪

クラブ 其の187

History Inquiry Club



文化財課 ☎22-1720
(博物館) FAX 22-2028

スポーツの祭典の思い出

2月9日から大韓民国の平昌郡^{ピョンチャン}でオリンピック冬季競技大会が開催されました。オリンピックは4年に1度開催されます。夏季と冬季は、長い間同一年に開催されてきましたが、1994年からは開催年がずれて、冬季大会は4で割り切れない偶数年に開催されています。日本では、夏季大会が1964年に東京で、冬季大会は、1972年の札幌と1998年の長野で開催されまし

た。2020年には東京で開催されますので、これから日本全国でも盛り上がっていくことでしょう。

オリンピックを実際に会場で見ることができた人や参加した人は記念となる品をお持ちの方もいるでしょう。本市でも成章高等学校には、東京オリンピック国内聖火リレーに使用されたトーチが残っています。



●聖火リレーのトーチ

全体の長さ65cm、トーチホルダーという持ち手部分の長さは19・5cm、最大直径は17cmあります。このトーチは日本の工業デザイナーの草分け、故柳宗理氏がデザインを手掛けたもの。トーチの中は、燃焼剤が入り、燃えている間は白い煙が出ます。握りのホルダー部分はアルミで黒色仕上げ。滑らないよう、ザラザラに加工されています。聖火



●トーチのホルダー部分

ランナーの選考条件は、2000mを7分以内で走れることでした。

正走者は点火され



●東京大会の聖火リレーの様子

たトーチを、随走者はオリンピックの小旗を持って走りました。正走者1人、副走者2人、随走者20人以上で編成され、成章高校生は5人が参加しました。当時の写真もあり、白色のランニングシャツ・パンツ・運動靴を着用していることが分かります。実際に走った区間は豊橋市内の殿田橋から岩西までだったのですが、50年以上たった今も、記念品となるトーチが大切に保管されています。この時の聖火リレー全体では、ランナーとして10万713人が参加し、約7300本のトーチが使われました。

また、東京大会から札幌大会の頃には切手収集がブームとなり、記念切手やコインを集める人もたくさん

いました。私もどこかに保管してあったことを思い出し、探してみましたが、切手は、大会の3年前から発行され、5円、10円、30円、40円、50円の各切手に付加金付きなども合わせた7次20種類があります。記念コインは100円と1000円銀貨がありました。



●東京・札幌大会の記念切手

今年、本市においても「2018 ISA ワールドサーフィンゲームス(世界サーフィン選手権)」をはじめとした多くのスポーツイベントが開催されます。記念と思いつに残る品を手元に置いておくと、その日がよみがえります。



●東京・札幌・長野大会の記念コイン

(鈴木)